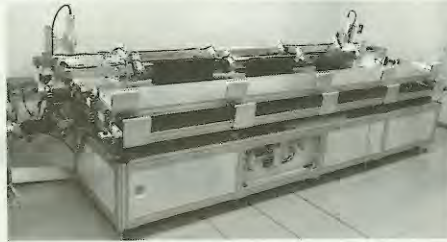


アセット・ウィッツ

目視検査自動化技術 2〜3年以内に事業化へ

(株)アセット・ウィッツ
京都市南区東九条下殿田



町13、☎075-681-7825)は、パイプの内面などこれまで機械化されていなかった目視検査を自動化できる、独自技術を生産学連携で開発した。パイプのほか様々な形状をした小型部品の検査に応用展開する方針で、2〜3年以内に事業化を担当する大学発ベンチャーを石川県内に設立する予定だ。

パイプ内面検査装置の
デモ機

製造現場では機械化、自動化が進展しているが、立体構造を持った製品は通常のカメラでの検査が難しく、依然として目視に頼っている。目視検査への依存は生産性向上の壁になっているだけでなく、熟練した検査員が必要となるため将来的に人材を確保するのが難しく、自動化が強く望まれている。

技術を開発した。可動焦点型ズームレンズ付きカメラによりパイプ内の画像を複数取得し、並列で高速画像処理して良否判定する。カメラにワークとの位置合わせ機能を搭載しているため、構造が簡素で搬送も自動化が可能だ。従来の光ファイバーカメラを挿入する手法に比べ、大幅に高速化、低コスト化できる。パイプや鋼管は製造装置や工場の配管、建材など多種多様な用途に使われており、検査自動化の恩恵は大きい。

特定企業向けに開発した技術だが、様々なパイプ、鋼管や小型部品などへの応用展開を目指して北陸先端科学技術大学院大学(石川

県能美市)や地域の中小企業とともに事業化に向けた取り組みを進めている。試作機を用いてマーケティング活動を行っているほか、

さらなる高速化や検査精度の向上に向けた開発も行う。事業化においては画像検査技術をコアに、顧客ニーズに応じてカスタムで装置を受託開発するビジネスモデルとする。製造、開発で協力している企業や大学を束ね、販売を推進する担い手となる大学発ベンチャーを2〜3年以内に設立する計画だ。

技術の応用展開やさらなる高度化に向けてはオープンイノベーションを志向しており、大手の検査装置メーカーなどとも幅広く協力していく。さらに、将来的には医療用の画像診断などへの応用も目指す。